

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720189

研究課題名(和文)明代白話小説の発展と挿図の関係

研究課題名(英文)relation between illustration and progress of colloquial stories in early modern China

研究代表者

廣澤 裕介(Hirosawa, Yusuke)

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号：20513188

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：中国近世白話小説の発展と挿絵との関係について調査/考察をおこない、いくつかの口頭発表と論文発表をおこなった。特に元代末期ごろに成立したと言われる『全相平話』は、ページの上部に絵が、その下に当時の中国の口語体(白話)で物語の本文が載せられており、絵と本文が一緒についたものとして現存作品の中では最初期のものとされている。その挿図の性格について、敦煌の壁画や日本の絵巻物などを参考にして、これまででない意見を提示することができた。また、白話小説に関するさまざまな資料や複写を入手し、また実際に所蔵機関に出向いて調査することができた。

研究成果の概要(英文)：I made some studies of relation between illustration and progress of colloquial stories in early modern China, and did some oral presentation, and wrote a work. Quanxiangpinghua was published on last Yuan dynasty, with many illustrations on the upper pages and colloquial story on lower page, which is considered oldest among existing. About the feature of this book style, I took a different view in comparison with illustrations of Dunhuang wall picture and Japanese Emakimono. And I bought many materials and copies, visited many library for researching original books.

研究分野：文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：全相平話 挿図 白話 三国志演義

1. 研究開始当初の背景

(1)中国近世の白話小説の版本に対する研究は、大正から昭和初期に最初の大きなブームを迎え、日本や中国でさまざまな版本が発見され、両国からの情報が互いに行き来する中で、一定の成果を得た。1990年代になると、版本の複写技術や所蔵機関の公開制限などが改善されたため、それらの原本もしくは精度の高い複写での研究が可能になり、また海外で新しい版本が発見・報告され、以前の版本研究の成果が見直される段階に入った。

(2)白話小説は文学作品の一種であるから、おのずとその版本に関する研究もテキストに注目することになり、最良もしくは最古(オリジナルに近い)のテキストを明らかにすることを目的としていた。極言すれば、最良のテキストを持つ版本だけが求められ、それを選定することが求められていた。しかしながら、そもそもさまざまな作品の多くの版本には挿絵をはじめとする多様な要素が付随して一書を構成するのであるから、かりに一つの版本全体の価値を測ろうとするなら、その挿図(やそのほかの部分)にもスポットを当てるべきであった。

(3)筆者はそれまでに明代末期に成立した短篇や長編の白話小説の版本について、その成立状況や出版業者の活動などを研究してきた。その中で、挿図の原画を描いた画工や版木を彫った刻工についても着目し、彼らの技術や画面設計の創意工夫に注目してきた。そのような挿図を中心に白話小説の版本を考えることは、テキストの優劣とは次元を異にする、それぞれの版本固有の特徴を知る重要な視点だと気づき、本研究の出発点となった。

2. 研究の目的

(1)本研究は、中国の明代末期に流行した白話小説、特に『水滸伝』『三国志演義』の各種版本の成立と先後関係について明らかにし、また個々の版本の価値について挿図のあり方に重点を置いて考察することを目的とした。従来は物語の文字テキストに基づいて版本の価値が論じられてきたが、その挿図に対する分析から、各版本の特徴を明らかにし、各作品の出版史からみた価値を問い直そうとした。

(2)『三国志演義』と『水滸伝』を選んだのは、いずれも東アジア各地域の文化への影響力が大きかった作品だからである。特に『三国志演義』についてはその成立史を探るための史料・文献が比較的多く、その成立史が明らかになれば、そのほかの作品を考えるためのひとつのモデルや参考になり得る可能性が高いからである。

(3)最終的には、『三国志演義』と『水滸伝』だけでなく、挿図が白話小説という文学ジャンル全体に与えた影響について考察を加えることを目的とした。またそれらの東アジアの芸能文化や絵画文化との交流や影響関係

を明らかにしようとした。

3. 研究の方法

(1)『三国志演義』や『水滸伝』の版本は、日本・中国・台湾・韓国の各地に所蔵されている。日本では国立公文書館内閣文庫・名古屋市蓬左文庫・天理大学附属天理図書館・京都産業大学、中国では北京にある国家図書館、台湾では故宮博物院図書部や国立中央図書館などである。上記の版本を所蔵する各国の機関を訪れ、その挿図を直接自分で見ながら、あるいは精度の高い複写物入手する。

(2)挿図の中のさまざまな要素に関して、各版本間での比較をおこなう。挿図の数量、形式、画工記名の有無、刻工記名の有無、挿図の構図の特徴、オリジナルとコピー、図柄や構図の継承関係とアレンジなどの創意工夫、挿図の図柄の精密さと簡略化、絵柄以外の装飾性などについて相違や特徴を分析する。

(3)挿図を版本の構成要素として重視しながらも、その要素の一つであることに変わりはないので、分析した挿図の特徴を版本全体の中で再度とらえ直す。具体的には、本の装丁と挿図の位置、本文と挿図の関係について考察をする。挿図が版本全体の最初にまとまって本文とは別冊の形で付いているのか、各冊の冒頭か、各回の冒頭か、あるいは全ページに付くのかなど。また本文と絵柄は完全に対応しているのか、挿図に記入される題辞と図柄はどのような形で対応しているのかなどを分析し、版本の中での挿図という要素について考える。

(4)白話小説に見られる挿図の特徴を東アジアの芸能文化や絵画文化と対照し、相互の交流や影響関係の有無について検討する。

4. 研究成果

(1)『全相平話』研究

『全相平話』に関する調査・研究
国立公文書館内閣文庫に所蔵される『全相平話五種』は日本の重要文化財に指定されている貴重な文献で、その成立は元代末期から明代初期と言われている。この資料は、挿図を有する白話作品の、現存する最も古いものとされており、本研究課題を進める上で、最も重要な対象となった。平成24年の冬に内閣文庫で原本の調査をおこない、その成果を「内閣文庫蔵「全相平話」の図像と形態について」というタイトルで口頭発表をおこなった。その主旨は、『全相平話』の装丁のあり方、彫版技術の特徴、図像のテーマ、「平話」と芸能の関係である。またこの口頭発表をまとめるまでに、「平話」と東アジアの芸能や絵画との関係について一定の理解をしなければならぬと考え、以降の研究課題へと範囲が拡大していった。『全相平話』に関しては以下に記すような資料収集やフィールドワークとともに、研究を推し進め、前述の

口頭発表からスケールアップした内容を平成 25 年 8 月より執筆し、『全相平話』のビジュアルワールド - 「上」から見る作品の素顔」という一文にし、翌年 2 月 28 日刊行の滝本弘之・大塚秀高編『中国古典文学と挿図文化』(あじあ遊学 171、勉誠出版)に掲載された。この論では図像の横長スペースに対応した典型的な五つの構図と画面の長所と短所、優れた彫版技法などについて言及し、絵巻物に使われる「異時同図」の作画法が見られることを指摘した。

また『全相平話五種』の図像の特徴を東アジアの絵画の歴史の中でとらえようと試み、敦煌の壁画や仏教説話画との関係、また中国近世の芸能史料、日本の絵巻物や絵解き芸能などさまざまな分野の研究書を読み進め、また絵巻物の実物や絵解き芸能の実演などを見学するフィールドワークをおこなった。それらの報告として『全相平話』の「全相」と上図下文スタイルについて - 『三国志平話』を中心に」という口頭発表をおこなうことができた(中国藝文研究会、平成 26 年 4 月 27 日、立命館大学末川記念会館)。この口頭発表では、『全相平話』が収録する五つの作品から『三国志平話』を取り上げ、横長スペースで展開される図像の系譜を参考に、「上図下文」スタイルの出版物の歴史をたどりながら、『全相平話』の図像について分析を加えた。

絵巻物に関する調査など

『全相平話』の図像の特徴である横長スペースについて考察するため、その類似性が考えら得る日本の絵巻物に関する知識や研究状況を得ようと、関連資料を購入し、また実物の絵巻物に対する調査・見学をおこなった。

絵解きに関する調査など

『全相平話』の図像の特徴である横長スペース、またその芸能性について理解するため、日本の絵解きに関する研究資料の購入や実演を見に行くフィールドワークをおこなった。折しも龍谷大学龍谷ミュージアムで開催された「絵解きってなあに？」展示会および関連イベントに観覧・参加し、非常に得る所が多かった。また和歌山の道成寺で実演を見学し、実演者である住職から絵解きの実演や研究に関する情報を得ることができた。また富山の南砺市など、現在も絵解きを実演している寺社を訪れ、実演会場を見学したり、資料を収集することができた。

(2) 『三国志演義』諸版本に関する調査と研究

『全相平話』

『全相平話』の中の一部である『三国志平話』はその名の通り、三国時代を舞台とする作品であり、明代中期頃に成立したとされる『三国志演義』の関連作品と目されてきた。前述のように、挿図を有する白話作品の、現存する最も古いものと考えられており、白話文学の歴史だけでなく、小説『三国志演義』の形成過程の上からも重視すべき作品である。そ

のため、上記のように、この研究課題を取り組む上で、一見無関係と思われる研究分野にまで足を踏み入れ、重点的に研究をおこなった。

張尚徳本の調査

『三国志演義』に関する諸版本の中で、張尚徳本は、現存する中で最初期に成立したとされる二種類のうちの一つで、従来の研究で最良の版本として中心的に扱われた時代もあり、今もなお重視すべき版本の一つである。筆者自身もこれまでの研究の中で何度か問題にしてきたが、実物を見たことはなかった。平成 25 年秋の台湾故宮博物院図書部での調査ではじめて実物を見、手で触れることができ、その紙質、文字の形状、刷りの具合などを直接確認できた。

周曰校本の挿図と版本系統に関する研究本研究課題の期間内で、さまざまな研究者によって多くの進展があったのが、『三国志演義』の周曰校本とよばれる一群である。日本では中川諭氏、上原究一氏らが次々と論文を発表し、中国では劉世徳氏ら、また韓国では重要な版本が発見され、研究が大きく進展した。それらの報告を中国の北京や上海でおこなわれたいくつかの学会・研究会の会場で直接聞くことができた。この版本群に関しては筆者自身も名古屋市蓬左文庫、京都産業大学小川文庫、台湾故宮博物院図書部などにみずから自ら赴いて所蔵される版本を調査し、独自にその丙本と乙本の絵柄の特徴などについて分析をおこなっていた。今後も研究を継続して、いずれ論文発表できるようにしたいと考えている。

『李卓吾先生批評三国志』呉觀明刻本の刻工に関する研究

蓬左文庫に所蔵される『李卓吾先生批評三国志』には何人かの刻工が関わっていることが確認され、劉素明はその一人である。劉素明は明代末期の白話小説出版に多く関わっており、このほかに『古今小説』『警世通言』の挿図の中にその名が見える。この両書はいずれも覆刻版すなわちコピー商品であるが、原刻と容易に見分けが付かないほどの覆刻の精度である。このうち『李卓吾批評三国志』と同レベルの覆刻精度と認められる『警世通言』を取り上げ、その絵図と本文の関係、絵図の中の題辞と本文の関係などについて考察をおこなった。

(3) 『李卓吾先生批評水滸伝』諸版本に関する調査

『李卓吾先生批評水滸伝』の版本については、国立公文書館内閣文庫の一種、天理大学付属天理図書館の二種、中国国家図書館の二種について調査をおこない、その一部に関して複写物を手に入れることができた。また 100 回本『水滸伝』の最古の版本とされる、いわゆる「嘉靖本」の書影を中国国家図書館においてマイクロフィルムで見ることができ、またその複写を手に入れることができた。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)
廣澤裕介『全相平話』のビジュアルワールド - 「上」から見る作品の素顔、アジア遊学、査読無、171巻、2014、33-49)

〔学会発表〕(計2件)
廣澤裕介「『全相平話』の「全相」と上図下文スタイルについて - 『三国志平話』を中心に」(中国藝文研究会、平成26年4月27日、京都市立命館大学末川記念会館)

廣澤裕介「内閣文庫蔵「全相平話」の図像と形態について」(中国古典小説研究会2011年度関東例会、平成24年3月24日、早稲田大学戸山キャンパス39号館)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1)研究代表者
廣澤 裕介 (Hirosawa, Yusuke)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号：20513188

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：